実践のまとめ（第１学年　英語科）

授業公開日　令和６年11月20日第５校時
指導者　柏崎市立松浜中学校
教諭　村山　雅哉

１　研究テーマ

生徒自身が発表内容を考え、修正できる指導の工夫
～ゴールに関連のある継続的な話すこと[発表]の言語活動を通して～

２　研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

平成29年度告示の中学校学習指導要領では、コミュニケーションを図る資質・能力が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理された。そして、これら３つは「言語活動を通して育成する」とされた。このことを踏まえ、言語活動を中心とした授業を行なっていく必要がある。

これまでの授業では、活動前に教師が全てを説明して生徒に知識を身に付けさせた後、それを活用させる言語活動に取り組ませる過程が一般的に行われてきた。しかし、「全国の実践から学ぶ中学校英語教育35のポイント」（山田、2022）では、「英語の授業で非常に大切なことの１つは、『内容が先、英語が後』という指導観をもつこと」とされている。また、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（文部科学省、2020）では、「これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性がないものは見直していくこと」とされている。これらを踏まえ、「理解してから言語活動に取り組む」から「言語活動に取り組みながら学ぶ」へと指導観を転換していく必要がある。生徒が言語活動に取り組み、教師のフィードバックからエラーに気付いて修正していく流れを通して、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を同時に育成していきたい。

また、中学校学習指導要領では、話すこと[発表]の目標の１つに、「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」とある。話し手として伝えたい内容や順序、聞き手に分かりやすい展開や構成などを生徒自身が考えられるようにするには、生徒が伝えたい、表現したいと思える目的・場面・状況が設定された言語活動を繰り返し行う必要がある。本実践では、言語材料を導入する際の動画の説明と、自分が撮影した動画の説明といった２つのゴールに関連した言語活動を継続して行う。

以上を踏まえ、話すこと[発表]の力の育成のために、ゴールに関連する継続的な言語活動を行う中で、教師のフィードバックを受けながら内容を修正し、よりよい発表のできる生徒を育てたい。

(2) 研究テーマに迫るために

①　ゴールに向けた継続した言語活動

主に２つの言語活動を継続して行う。１つ目は、言語材料を導入する際の動画の説明である。生徒の活動や部屋の様子がわかる動画等を教師があらかじめ用意し、生徒がその内容をペアに伝えるといった形式である。２つ目は、自分が撮影した動画の説明である。パ

フォーマンステストの際に、実際にＡＬＴに見せながら説明する動画について、表現を修正しながら繰り返し発表する。これら２つのゴールに関連する言語活動で行うことで、動画の内容についてまとまりのある内容を話す力を養う。

② 中間指導における工夫

言語活動は、以下の流れで行う。

（活動に取り組ませる前）
↓
1　言語活動（１回目）
↓
2　中間指導
↓
3　言語活動（２回目）

①目的や場面、状況などを理解させる。
②使用する言語材料を明示しない。

③内容面からの指導をする。
④言語面からの指導をする。

中間指導において、言語活動（１回目）での生徒のエラーを、内容面→言語面の順でフィードバックを行う。その際、ゴールの目的・場面・状況から適切な表現を、こちらから提示するのではなく、生徒から引き出すことを重視する。これまでの学習内容をゴールと結びつけることで、生徒の表現の幅を広げていきたい。

(3) 研究テーマに関わる評価

① 抽出生徒の変容の見取り

３名抽出し、単元初めとパフォーマンステストの「話すこと[発表]」の動画を比較し、使用する表現の種類や語彙数が増えている。

② パフォーマンステスト

単元末のパフォーマンステストで、「思考・判断・表現」の「ＡＬＴが、より興味をもってもらえるような内容で、昼休みの様子をわかりやすく伝えながら話すことができる。」のＡ評価の生徒が50%程度となる。

３　単元と指導計画

(1) 単元名

PROGRAM 7　Research on Australia
PROGRAM 8　The Year-End Events　（Sunshine 1　開隆堂）

(2) 単元の目標

生徒の昼休みの様子を知りたがっているＡＬＴのために、昼休みの様子を撮影した動画について、活動している内容や友達の情報を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。（話すこと[発表]）

(3) 主に「話すこと[発表]」における単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
＜知識＞ 現在進行形を用いた文の構造を理解している。 ＜技能＞ 昼休みの様子を撮影した動画について、活動している内容や友達の情報を整理し、現在進行形を用いて伝える技能を身に付けている。	生徒の昼休みの様子を知りたがっているＡＬＴのために、昼休みの様子を撮影した動画について、活動している内容や友達の情報を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。	生徒の昼休みの様子を知りたがっているＡＬＴのために、昼休みの様子を撮影した動画について、活動している内容や友達の情報を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。

(4) ゴールのモデルテクスト

＜ゴールの目的・場面・状況＞ ジョン先生は、毎週金曜日に松浜中学校に来て、みなさんのために授業をしています。ただし、勤務の関係で、給食を食べた後にすぐに帰らなくてはなりません。そのため、みなさんが昼休みにどのように過ごしているかわかりません。 ジョン先生は、他の学校の勤務を調整し、金曜日以外に学校に来て、一日松浜中学校で過ごせる日があります。その日の昼休みには、みなさんと一緒に過ごしたいと思っているため、みなさんの昼休みの過ごし方に興味をもっています。 そこで、昼休みの様子を知りたがっているジョン先生のために、みなさんが普段昼休みに行っていることを動画撮影し、その動画を見せながらジョン先生に興味をもってもらえるように様子を伝えましょう。
Hello. I am ○○. Please look at this movie. We are in the gym. We are playing basketball. We like basketball. There are 5 friends. ○○-san, ○○-san, ○○-san, ○○-san and ○○-san. ○○-san is good at basketball. His shoot is good. We always play basketball in the gym. Let's play basketball with us!

(5) 単元と生徒

１年生は、大きな声で発音したり、自分なりに考えたことをプリントに記入したりと、英語の授業に積極的に臨む姿が見られる。また、男女関わらず、誰とでも話すことができる友好な関係性が築かれている。自分のことを伝えたり、相手に質問したりする活動を楽しいと感じる生徒がいる一方、英語を苦手と感じている生徒も多い。

生徒はこれまでに、be動詞や一般動詞、canを用いた夏休みのおすすめの旅行先紹介（話すこと[発表]）や、代名詞等を用いた憧れの人ポスター作り（書くこと）を単元のゴールとして行ってきた。どちらの単元も、お世話になっているＡＬＴのために、伝える内容を生徒自身が考えることができるように、明確な目的・場面・状況を設定した。生徒たちは、どのような内容にすれば喜んでもらえるのか試行錯誤しながら、課題に対して懸命に向き合う様子が見られた。夏休み後からは、即興で話す力を養うために、週２回程度のSmall Talkを継続してきた。英語に苦手意識をもつ生徒は多いが、間違いを恐れずにチャレンジしようとする姿が見られている。

本単元は、PROGRAM ７とPROGRAM ８を合わせて１つの単元とし、昼休みの活動紹介という話すこと[発表]のゴールを設定した。目的・場面・状況について、ＡＬＴが勤務の関係で給食後に帰ってしまうこと、昼休みの様子を知りたがっていることを踏まえて、生徒自ら発表内容を考えられるようにしたい。そのために、ゴールに関連した言語活動を継続して行う。表現を考えながら修正しつつ、ＡＬＴに興味をもってもらえるような発表ができる生徒を育てていきたい。

(6) 単元の指導と評価の計画（全14時間、本時４／14時間）

時間	ねらい（■）、言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1	■単元のゴールを理解する。 ①ＡＬＴからの依頼動画を見てゴールの見通しをもつ。また、教師の発表例を見て、イメージをつかむ。 PROGRAM 8　Scenes 1（現在進行形の肯定文、否定文） ■昼休みの動画の内容を伝えることができる。 ②教師が提示した動画１について、活動している内容や友達の情報をペアに伝える。				・後日行うパフォーマンステストに向け、「帯活動」で、動画の内容を伝える「話すこと［発表］」の言語活動を行い、活動している内容や友達の情報を詳しく説明する力を養う。また、Small Talk で、発表に必要な表現の確認を行う。
2	■昼休みの動画の内容について、伝える内容や順序などを前回より詳しく伝えることができる。 ①教師が提示した動画２について、活動している内容や友達の情報をペアに伝える。 ②動画を撮影する場所や内容の計画を立てる。				
3	■ジョン先生に紹介する動画を撮影することができる。 ①Small Talk「sweets」 ②ＡＬＴに発表する際に提示する動画を撮影する。				
4	PROGRAM 8　Think 1（本文内容理解） ■エミリーの家族がしていることを読み取ることができる。 ①自分の動画について、活動している内容や友達の情報をペアに伝える。（帯活動） ※発表の様子の記録動画を撮影する。 ②教科書の本文を読み、読み取れた内容をペアで確認する。 ③教科書本文で使われている表現から、ゴールの発表で使えそうな表現を確認する。				記録に残す評価は行わない。ただし、帯活動や言語活動において、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間行う。
5 本時	■自分の動画の内容について、伝える内容や順序などを前回より詳しく伝えることができる。 ①Small Talk「movie」 ②自分の動画について、活動している内容や友達の情報をペアに伝える。				
6	PROGRAM 7　Scenes 1（There is/are） ■教室の中の様子を伝えることができる。 ①Small Talk「season」 ②教師が提示した動画について、教室の中にあるものをペアに伝える。				

7	PROGRAM 7　Think 1（本文内容理解） ■オーストラリアの世界遺産について、読み取ることができる。 ①自分の動画について、活動している内容や友達の情報をペアに伝える。（帯活動） ②教科書の本文を読み、読み取れた内容をペアで確認する。 ③教科書本文で使われている表現から、ゴールの発表で使えそうな表現を確認する。		
8	PROGRAM 7　 Scenes 2（how） ■先生方の通勤の様子について、質問することができる。 ①Small Talk「pet」 ②先生方の住んでいる地域や通勤時間についてまとめた用紙を持ったペアに質問をする。		記録に残す評価は行わない。ただし、帯活動や言語活動において、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間行う。
9	PROGRAM 7　Think 2（本文内容理解） ■エミリーが夏にオーストラリアですることを、読み取ることができる。 ①自分の動画について、活動している内容や友達の情報をペアに伝える。（帯活動） ②教科書の本文を読み、読み取れた内容をペアで確認する。 ③教科書本文で使われている表現から、ゴールの発表で使えそうな表現を確認する。		
10	Power-Up 5 ■インタビューの内容を聞き取ることができる。 ①Small Talk「ramen」 ②インタビューの内容から、必要な情報を聞き取る。		
11	■PROGRAM 7の表現を復習することができる。 ①スライドを用いて、新出文法を確認する。 ②新出文法に関連するリスニング問題を行う。 ③復習プリントに取り組む。		
12	PROGRAM 8　Scenes 2（現在進行形の疑問文） ■動画の様子の聞き取りをすることができる。 ①自分の動画について、活動している内容や友達の情報をペアに伝える。（帯活動） ②ペアが見ている動画の内容について、詳しく質問する。		
13	PROGRAM 8　Think 2（本文内容理解） ■ヘレンが何をしているか、読み取ることができる。		

	①Small Talk「video games」 ②教科書の本文を読み、読み取れた内容をペアで確認する。 ③教科書本文で使われている表現から、ゴールの発表で使えそうな表現を確認する。				
14	■PROGRAM 8の表現を復習することができる。 ①自分の動画について、活動している内容や友達の情報をペアに伝える。（帯活動） ②スライドを用いて、新出文法を確認する。 ③新出文法に関連するリスニング問題を行う。 ④復習プリントに取り組む。				
後日	■【評価タスク】 ＡＬＴに昼休みの様子を伝えることができる。 ○パフォーマンステスト	○	○	○	
後日	PROGRAM 7, 8の単元テスト（ペーパーテスト）	○			

※単元のゴールに必要な言語材料の導入の順番を見据え、現在進行形を扱うPROGRAM 8の前半をPROGRAM 7より先に学習する。

４　本時の展開

(1) ねらい

自分の動画の内容について、伝える内容や順序などを前回より詳しく伝えることができる。

(2) 展開の構想

①　ゴールに向けた継続した言語活動について

Warm-upとしてSmall Talkを行う。長期にわたって継続して行うことで、生徒の即興で話す力を養う。

展開時は、今後帯活動として行なっていく自分の動画についての発表を行う。

②　中間指導における工夫について

２つの言語活動の中間指導において、どちらも内容面→言語面の順でフィードバックを行う。展開時の自分の動画についての発表は、生徒にとってまだ２回目の発表であることから、まとまりのある内容を話すことが不十分であることが考えられる。そこで、どのようなことを工夫すればまとまりのある内容になるのか生徒自身に気付かせ、改善できるようにしたい。

(3) 展開

時間 （分）	・学習活動	○教師の働き掛け ●予想される生徒の反応	□評価　☆支援　◇留意点
Warm-up (15)	・Small Talk トピック 「movie」	○１回目のペアワーク後、内容面→言語面の順番でフィードバックを行う。自分の表現について、ミスに気付いて修正して表現できるようする。その後、２回目のペアワークを行わせる。	☆机間巡視で、トークが止まってしまったペアに対して、教師が次の会話のヒントとなる質問をする。

		●内容面：どんな登場人物が好きか聞く表現がわからなかった。 ●言語面：I watch is Laputa. （ミスの例）	◇生徒の、有効であった質問内容や言語面のミスの積極的に取り上げ、２回目のペアワークで生かせるようにする。
導入 (5)	・目標確認 自分の動画の内容について、前回より詳しく伝えることができる。 ・「詳しく伝える」の内容確認	○どのようなことを改善すれば、詳しく説明できたことになるのか考えさせる。 ●動画の中の人がしている行動を詳しく伝えればよい。 ●伝える順番やタイミングを工夫すればよい。	
展開 (20)	・自分の動画についての発表	○１回目のペアワーク後、代表生徒を指名して、どんな動画を紹介したのか全体で確認する。代表生徒がペアに伝えたことについて、内容面→言語面の順番でフィードバックを行う。自分の表現について、ミスに気付いて修正して表現できるようする。その後、２回目のペアワークを行わせる。 ●内容面：友達が、バスケットボールが得意であることをどの場面で言えば良いか迷った。 ●言語面：They playing basketball. （ミスの例）	□伝える内容や順序などを前回より詳しく伝えている。
(5)	・言えた文の書き起こし	○言語面の正確性を高めるために、発表で言えた文や中間指導で確認した文をプリントに書かせる。	☆黒板の表現を自分の内容に置き換えて書いても良いことを伝える。
終末 (5)	・振り返りシート記入	○内容面、言語面に分け、振り返りをさせる。 ●内容面：前回よりも友達の行動を詳しく説明することができた。 ●言語面：今していることを伝えるときは“He is playing ～.”という。	☆内容面、言語面から振り返りができるようにシートを工夫する。

(4) 評価

自分の動画の内容について、伝える内容や順序などを前回より詳しく伝えている。

【思考・判断・表現】

→展開時の言語活動で生徒の様子の見取りを行う。

（記録に残す評価は行わない。ただし、言語活動において、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは行う。）

５　成果と課題

(1) 授業の実際

①　ゴールに向けた継続した言語活動

１つ目の、言語材料を導入する際の動画の説明について、教師があらかじめ用意した動画を用いて言語活動を行った。第１時や第６時の、活動している内容や友達の情報をペアに伝える言語活動では、教師の例からゴールの活動のイメージをつかむとともに、自分の動画発表の際の練習を兼ねた活動になった。また、第12時の、ペアが見ている動画の内容について詳しく質問する言語活動は、話すこと[やり取り]の領域であったが、これまで行ってきた言語活動の中で使った表現を思い出しながら活動を行えていた。いずれもゴールの動画紹介に近い形で言語活動を行えたので、生徒が見通しをもつこと、まとまりのある内容を話す力を養うことにつながったと考えられる。

２つ目の、自分が撮影した動画の説明について、帯活動として友達に発表した。繰り返し行い、中間指導を行うことで、内容面、言語面とも生徒自身が修正しながら言語活動を行うことができた。その結果、単元後半の帯活動では、メモを見ながら話す生徒は一人もおらず、全員が自分の動画のみを参考に話すことができていた。帯活動で文を組み立てる力が付いたことが見受けられた。

②　中間指導における工夫

言語活動を行う際、２回目の前に毎回必ず中間指導の時間を設けた。どのような内容を伝えたかったか（内容面）、それを伝えるためにはどのような英語を使えばよいのか（言語面）、それぞれ生徒から引き出すことで、生徒が主体的に表現を考えたり、ミスに気付いたりすることの手立てとなった。

中間指導を行う際、生徒が発話した英語を分類別に書き、黒板を構造化した。（**図１**）は、本時のSmall Talk後の板書である。（**図２**）のようなカードを活用し、生徒の発言を可視化することで、視覚的にわかりやすく示した。（**図３**）は、本時の自分の動画についての発表後の、内容面を示した板書の一部である。生徒の１回目の言語活動で伝えた大まかな内容を書き出し、伝える内容や順序などの修正箇所を生徒から引き出し、全体で確認した。

２回目の言語活動後は、構造化された板書を参考に表現をノートに書く時間を設けた。実際に言えた表現、分からなかったりミスしてしまったりした表現、次回の言語活動で使いたい表現を中心に書かせた。そのノートを参考に、Small Talkの前に前時のノートで表現を自主的に確認する生徒もいた。積み重ねた学習の成果を活用している姿と言える。

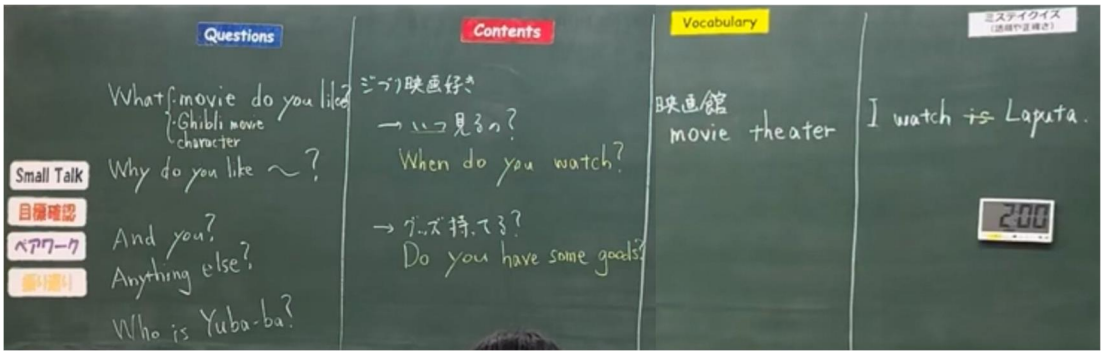

図１　本時のSmall Talk後の板書

図２　カード

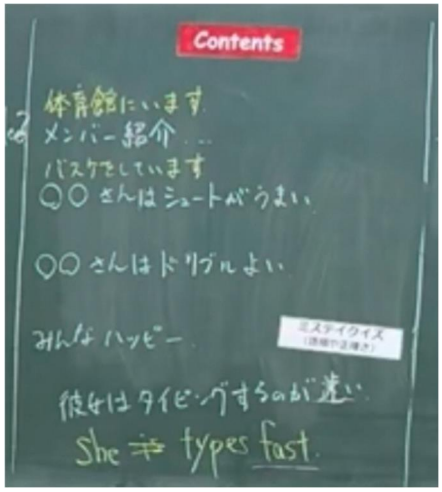

図３　本時の動画の発表後の板書の一部

(2) 研究テーマに関わって

①　抽出生徒の変容の見取り

以下に、パフォーマンステストで見られた生徒の発表の様子を示す。（生徒の表現の中に誤りがあっても、発話された通りに記す。）あいさつや自己紹介などは省略する。○○には、友達の名前が入るものとする。なお、下線部が、伝える内容や順序などを整理し、まとまりのある内容を詳しく伝えられている姿（「思考・判断・表現」がＡ評価になる要素）である。

Ⅰ　生徒Ａ

They are ○○, ○○, ○○, ○○, ○○. They are in the gym. They are playing basketball. ○○ is fun. ○○ very fine. ○○ is run fast. ○○ is very shoot. ○○ is very good dribble.

Ⅱ　生徒Ｂ

They are in the classroom at lunchbreak. ○○ has a high powers. ○○ is funny. ○○ is very kind. They are doing training. Burpee jump a hard menu. I can play burpee jump. I like training.

生徒Ａ、Ｂにおいて、第４時よりも使用する表現の種類や語彙数が増えていた。しかし、“○○ is funny.”“○○ is very kind.”などは、その人物の特徴ではあるが、その場面にはあまり関係のない内容であったり、人物が映っていない場面だが伝えていたりしている。

Ⅲ　生徒Ｃ

They are in the gym. They are playing basketball. ○○ is good at dribble because he is practices. ○○ is good at shoot. Nice goal performance. ○○ is very funny. ○○ is basketball player. ○○ is nice shoot. They are enjoy basketball.

生徒Ｃにおいても、表現の種類や語彙数が増えていた。生徒Ｃは、動画の場面に合わせて、必要に応じて特定の場面になるまで待ちながら、友達が今やっていることや特徴を適切に表現できていた。例えば、生徒Ｂ同様に“○○ is funny.”という内容を伝えているが、生徒Ｃの場合は、動画の中で実際に笑いが起こるような行動をしている友達の様子を

伝えていた。“Nice goal performance.”も、友達がシュートを決めた後のポーズに対しての表現であった。

② パフォーマンステスト

第４時に録画した動画の発表の内容を評価すると、「思考・判断・表現」がＡ評価の生徒は７人であった。単元末のパフォーマンステストでは、生徒25人中、Ａ評価の生徒は19人であり、全体の76%となった。本実践を通して、内容をわかりやすく伝えながら話すことができたと言える。

(3) 今後の課題

① パフォーマンステストの評価基準

本実践の単元末のパフォーマンステストでは、「思考・判断・表現」がＡ評価の生徒が多かった。これは、本実践を通しての成果とも考えられるが、評価基準が甘かったとも考えられる。本実践でいうと、生徒の昼休みの様子を知りたがっているＡＬＴという状況から、感想や活動に誘う言葉を伝えることを評価基準の一つとし、その指導を中間指導で確実に行うことで、より難易度の高い評価基準にすることも考えられた。今後は、目的・場面・状況に応じて生徒が適切な内容を話したり書いたりできているかを適切に見取り、中間指導でさらに内容面について生徒自身が考え、修正できるような指導を行っていきたい。

② 実際のコミュニケーションに近い話すことの指導の継続

本実践の成果の一つとして、英文のメモを見ずに、動画を頼りに発表できたことが挙げられる。その際、話し手も聞き手も相手の方を見ていた。さらに、中にはジェスチャーも付けながら発表していた生徒もいた。これらは、コミュニケーションを行う上で必要なことである。今後も、話すことの単元を設定していく中で、これらを継続できるような指導を継続していきたい。

③ 振り返り時にICTを用いた他者参照できる工夫

これまで生徒の言語活動におけるフィードバックを、主に中間指導の時間に黒板を用いて全体に共有してきた。しかし、フィードバックの内容が多い、または詳しく行いたい場合、それだけ時間がかかってしまう。実際に、中間指導の時間が長くなってしまい、予定していた内容ができなかったことが何度かあった。限られた時間の中で、効率よく全体共有していくには、ICTを用いる方法がある。具体的には、Google Classroomや柏崎市で取り入れられているオクリンクプラスの全体共有の機能を使うことにより、生徒が自分に必要な情報を短時間で確認することができる。これまで行ってこなかったノート、まとまりのあるライティング、振り返りシートの記入内容を全体で共有できる機会を作っていきたい。

＜参考・引用文献＞

『中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 外国語編』. 文部科学省. 2017
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』. 文部科学省. 2020
『全国の実践から学ぶ中学校英語教育35のポイント』. 山田誠志. 2022